

# 平成19年度 大坊小学校校内研修計画

## 1. 研究主題（3年次）

子どもに確かな「話す・聞く」「書く」「読む」力を育てる学習指導の研究  
—— 「話す・聞く」力の育成 ——

## 2. 主題設定の理由

### （1）これまでの研究から見えてきたこと

問う力を育てる授業とは、子ども一人一人が自らの願いや思い（問い）を持つことを尊重するものであり、その願いや思いを発展させていくことを保障するものであるという考え方で研究を進めてきた。そして、これまでの三年計画で進めてきた研究を振り返って、課題として見えてきたことは、

各教科で、問いの発展を保障する授業をすればするほど、子どもが問いを持ち、問いを深めていくための「支えとなる力」があることに気づいてきたのである。特に、国語科の「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の力を身につけさせる必要があるということがわかってきた。それは、以下の子どもの実態から判断したのである。

- ・自分の考えを課題に合わせて書いたり、順序よくまとめて書いたりすることができない。
- ・表現力不足な発表をし、友だちに自分の思い、考えをうまく伝えられない。
- ・友だちや教師の話をもとんと聞く。
- ・友だちのまとめたもの、資料等から何について書いているのか、自分に必要な情報はどれかなどの視点で的確に読み取れない。

これらのことが不足している子どもは、教師が事象提示を工夫し問いを持たせることができても、問いの深まり、問いの連続的な発展は期待できないのである。

### （2）CRT観点別テストから

国語ではどの項目も、全国平均を上回っている。これは、本校の校内研で国語に取り組み「書く力」と「読む力」の育成に力を入れてきた成果の表れだと思われる。書くために読み、読むために書く、ことを螺旋的に指導してきたことで書く力とともに読む力も向上してきたと考えられる。しかし、児童の実態を考えると、「話す・聞く力」をつけていく必要を感じる。来年度の校内研と関わらせながら、より一層子どもに寄り添った授業の構築をし、各教科に転移できる総合的な国語力を育成していく必要がある。

### （3）学校教育目標具現化を図るため

子どもに「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の力を各学年に応じて確実に身につけさせることで、自ら問いを持ち、考え、解決していき、解決したことを他者に的確に伝える主体的な活動が展開されていくと考える。このことは、学校教育目標の「自

ら学び 心豊かに たくましく」の「自ら学び」、努力目標の「進んで学ぶ子...進んで学習し、自分の力で解決しようとする」の具現化につながる。

#### (4) 今日の課題から

平成15年度学習指導要領の一部改正に際して中央教育審議会はその答申で学力観の明確化を図り、次のように述べた。「本審議会としては、(中略) まずは生きる力を知の側面からとらえた確かな学力をはぐくむため、学習指導要領に示されている共通に指導すべき基礎的・基本的な内容を確実に定着させること、各学校における創意工夫を生かした特色ある取り組みを充実させることを提案する。」そして、確かな学力を、「確かな学力とは、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力までを含めたものであり、これを個性を生かす教育の中ではぐくむことが寛容である。」としている。

つまり、自ら学び自ら考える力を育成する基盤として、一定の基礎的・基本的な知識や技能を身につけていることが不可欠であり、教師は、子どもたちにこうした基礎的・基本的な力を確実に習得させる必要があるのである。

このことから、本校の目指す「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の力は、基礎的・基本的な力であり、確かな学力の核となる重要な力であると考えられる。

そこで、(1)から(4)を受けて、本校の今年度のテーマは、

子どもに確かな「話す・聞く」「書く」「読む」力を育てる学習指導の研究とする。

まず、「確かな」とは、どういうことなのか。

「確かな力」の「確かさ」には、二つの要素があると考えられる。

- 1, 繰り返し学習、反復練習によって生み出される「確かさ」
- 2, 考える学習によって生み出される「確かさ」

この二つをバランス良く、関連させていくことで、「確かさ」が増すであろう。ただし、そこに貫かれているものは学習意欲である。学習意欲が不足していると忘却が速い。

上記を念頭に置きながら、子どもに確かな「話す・聞く」「書く」「読む」力(国語力)を3年計画で育成していくものとする。ただし、これらの3つの力は、総合的、螺旋的に関連しており、学習指導研究の便宜上、分けて研究していくものである。

- 1年次 「書く」力にスポットを当て、研究する。
- 2年次 「読む」力。
- 3年次 「話す・聞く」力。

## (5) 2年次の成果と課題

2年次は、単元の中に4つの段階の読む活動を位置づけ、取り組んできた。その結果次のような成果があった。

第1段階の「声に出して読む」では、授業の中に音読を様々な読み方で取り入れた結果、すらすら読めるようになり、第2段階の読みにつながる力をつけることができた。

第2段階の「叙述に即して読む」では、一字読解を継続して行った結果、文をよく読み、適切な答えを書くことができるようになった。一字読解は、子どもも意欲を持って取り組み、低位の子にも力をつけることができた。

第3段階の「詳しく読む」は、説明文の基本的な読み「問いの文と答えの文の対応」「キーワードによる要約の仕方」などは、身につけてきているが、教師主導になりがちであった。しかし、教師主導で鍛えていくうちに、子どもたちは自分で読み取っていく力をつけてきている。少しずつ子ども主体に持っていきたい。物語文の読みは、言葉の意味を丁寧に扱うことが大切であり、イメージを膨らませる時も文から離れていかないよう、前後のつながりを大切にして取り組んだことがよかった。

第4段階の「まとめの読む」は、条件をつけたり、書き出しの文を与えたり、形式や枠を与えたりすることで質の良い感想文が書けることがわかった。書き終わってから友だちの感想文を読んだり、聞いたりして、相互評価・自己評価をし、付け加えさせることも有効であることがわかった。しかし、学年が上がるにつれて質・量ともに目標に迫る感想文を書かせることが難しかった。

以上のことから、第1から第4までの読む活動をスパイラル的に取り入れた指導過程を組むことは、子どもに読む力を身に付けさせることに有効であるといえる。

しかし、次の5つの課題が明らかになった。

教師主導になることが多かった。

説明文に比べて、物語文の読みの深まりが少なかった。

読む力がないと自分の考えを書けない。そして、書く力の差が大きい。

指導と評価の一体化が不足していた。

共通理解が不足している点があった。

そこで、3年次は、上記のことをふまえて、1年次・2年次の指導内容を継続していきながら、「話す・聞く」をメインに総合的な国語力を身につけさせることをめざしたい。

## 3. 研究目標

学習意欲を向上させながら、子どもに確かな「話す・聞く」力を身につけさせるための指導の仕方について実践を通して明らかにする。

## 4. 研究仮説

基本話型や基本聴型を与え、話す活動・聞く活動・話し合いの活動を位置づけた指導過程を工夫することによって、どの子にも「話し合い」の場が保障され、主体的な話し合いをするようになり、「話す・聞く」力が段階的に向上していこう。

## 5 . 研究内容

指導過程の工夫

### 第1段階 基本話型・基本聴型により「話す・聞く」技能を身に付ける。

- ・授業中の発言の話型を正面に貼り、日常的に身につけていく。
- ・態度面・言語事項の系統を踏まえて指導する。
- ・朝または帰りの会でのスピーチ。(前もって、題と型を与えてウェビング法などを使い、話す内容を書かせ、練習させ、話させる)
- ・基本話型のワークシートに書き込み、練習をし、話す。
- ・聞いたことを基本聴型のワークシートに書き込む。

第1段階は、物語文に絞らず、『『伝え合う力』を育てる基本話型・基本聴型ワーク』明治図書など市販のものを活用していく

### 第2段階 自分の思いや考えを書き発表する。

話し合うための基礎力を育てる

- ・主発問に対する自分の考えをノートに書く。結論 理由の順に書かせる。または、型を与えて書かせる。
- ・教師が子どもの書いたノートを見て、理由が書けていたらほめて、 をつけて、安心して発表できるようにする。
- ・机をコの字型にし、指名なし発表の形式で発表していく。

### 第3段階 子ども主体の話し合い

話し合うための表現力・批判的思考力・コミュニケーション力を育てる。

- ・意見の分かれる話し合いのしやすい発問をする。
- ・ノートに自分の考えを書かせる。結論 理由の順に書かせる。または、型を与えて書かせる。十分な時間をとり、十分に書かせる。
- ・ノートを教師が点検し、どの意見も理由が書けていたら認めて をつける。
- ・机をコの字型にし、自分から立って話し合いをする。
- ・教師は、出された発表から1つまたは、2つ選び、もう1度自分の考え(A君に賛成か反対か、A君とどこが同じ考えか、A君とどこが違う考えか、A君の考えのどこが良いのか、自分の良いところはどこか)をノートに書かせる。
- ・2回目の話し合いをする。
- ・話し合いが終わった後、もう1度ノートに自分の考え(最初の意見と最終的に選んだものの違い)を書かせる。

昨年度、物語文の読みの深まりが足りなかったという反省を踏まえて、研究授業は、物語文(詩・俳句・短歌)における内容の読み取りでの話し合い活動に絞りたい。絞って研究することで、日常的な「話す・聞く力」をつけていきたい。

## 評価の工夫

自己評価：毎時間の終わりに「今日の授業は～であった。なぜならば～」と型を与えて短い文で書かせる。

### 相互評価

誰のどこが良かったかを必要に応じて記述させ相互評価する

### 個別評価

1時間の中で必ず個別評価を教師がする

### 到達度評価

：明確な評価規準を教師が持ち、ノートに書かれた文章の量と質、発言の回数、態度を記録していき単元の終わりに評価する。

：評価規準A B Cから1人ずつ選び、1学期に書いた物（ノートや感想文評論文）と学年末に書いた物を比べ、その伸びをみる。さらに、全学年研究集録に載せる。

### 研究の成果の自己評価

態度面や言語面を中心に年度始めに自己評価させ、年度末に同じ項目で自己評価させる。低中高ブロックで作成する。

## 話す・聞く力を支える基礎的技能的繰り返し学習

- ・1年次・2年次で行い成果のあった視写や音読(指名なし音読)・1字読解などは、引き続き行っていく。
- ・話す・聞くスキルの活用(姿勢・口形・発声・イントネーションなど技能の練習)
- ・日常生活の中や他教科における聞き方・話し方の指導
- ・読書の推進(朝読書・読書感想文発表会・担任による本の読み聞かせ)
- ・漢字の読み書き、文字や語句の理解を授業の中で身に付ける。
- ・国語辞典の活用
- ・鉛筆の持ち方、書く姿勢、読む姿勢を正しくさせる。

## 授業実践

- ・低・中・高ブロックに分かれ、各ブロックで授業研究を深めていく。授業は、学級担任全員実施し、そのうちの1回を要請訪問にあて、指導を受ける機会を設ける。要請訪問時は、綿密な指導案の検討(2回)をし、授業記録、協議記録をとる。他の授業は、略案とし、ブロックで指導案の事前検討会を行い、協議会を設け、記録者は、協議会記録をとる。

## 現職教育

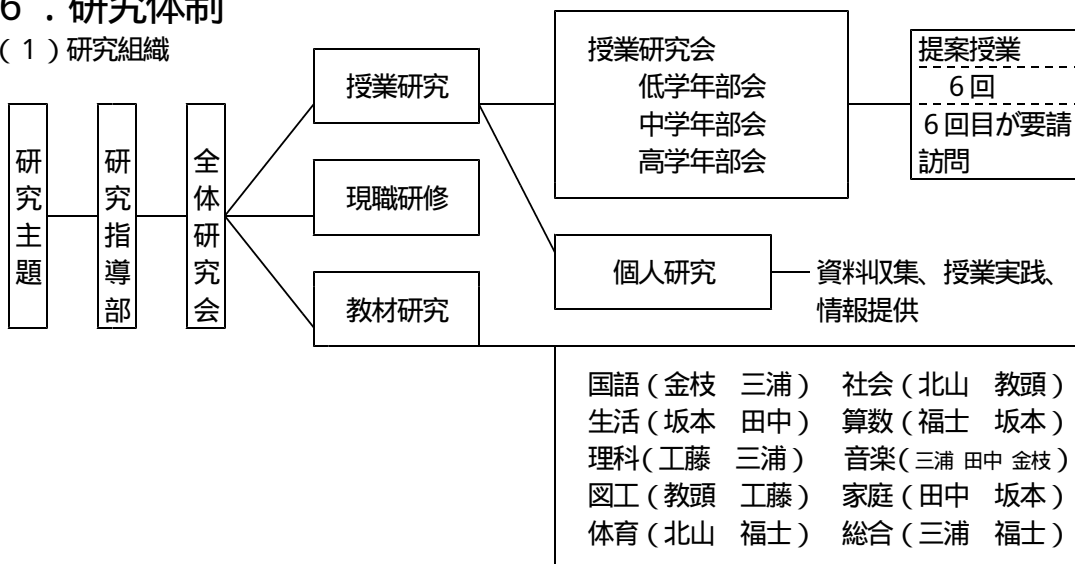
- ・特別支援教育、理科の実験用具の取り扱い方、家庭科(ミシン)、スキー、パソコンなどの研修を行う。

## 文献研究

- ・「話す・聞く」力を育てる指導過程・学習形態・子ども理解・評価等に関する先行研究や文献等を図書・インターネットなどで収集し、参考にする。

## 6. 研究体制

### (1) 研究組織



### (2) 役割分担

	仕事の内容	担当
研究指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修計画作成、研究の運営、推進 研究会案内</li> <li>・チャレンジテスト</li> <li>・要請訪問</li> <li>・現職研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金枝 工藤</li> <li>・金枝</li> <li>・三浦 工藤</li> <li>・金枝 工藤</li> <li>・金枝 三浦</li> </ul>
授業研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理論研究</li> <li>・提案授業指導案の作成、検討</li> <li>・学力テストの分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年部会：田中 坂本 校長 成田</li> <li>・中学年部会：金枝 三浦 教頭</li> <li>・高学年部会：福士 北山 工藤</li> </ul>
編集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究集録第29号作成、編集、印刷、製本（やまと印刷）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究指導部</li> </ul>
教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科指導計画</li> <li>・教具整備、管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科担当者</li> </ul>

### (3) 授業研究

	授業者	司会者	記録者 (授業)	記録者 (協議)
提案授業 4年	三浦るみ子	佐藤 一人		工藤 清吾
提案授業 5年	福土 道太	工藤 清吾		北山 沢也
提案授業 6年	北山 沢也	佐藤 一人		福土 道太
提案授業 2年	坂本 和泉	金枝 朋子		田中恵美子
提案授業 1年	田中恵美子	金枝 朋子		坂本 和泉
提案授業 (要請)	金枝 朋子	工藤 清吾	三浦るみ子	成田眞樹子

記録機器準備 写真(教頭) ビデオ(一戸)

### (4) 研究集録

今年度の研究結果を下記要領により「研究集録」第29号にまとめる。

B5判 横書き袋とし

40部作成

作業分担

表紙...研修主任

写真...教頭

巻頭言...校長

目次...研修主任

研修計画...研修主任

指導案...授業者

授業・話し合いの記録...記録者

学年の研究...学級担任

研究の成果と課題...研修主任

あとがき...教頭

製本発注...研修主任

集録を各校に配布...教頭

## 7. 研修日程

月 日(曜日)	内 容
4月10日(火)	・研修計画提案、検討
5月10日(木)	・研修計画再検討 ・年間指導計画見直し、修正 ・自己評価の表と話型作り(低中高ブロック)
6月 4日(月)	・ <b>提案授業 (4年) 授業者 三浦 るみ子</b>
6月20日(水)	・現職教育(ミシン) 講師 田中恵美子先生
6月27日(水)	・現職教育(理科) 講師 工藤清吾先生 ・現職教育 DVDをみて授業のイメージをつかむ

6月18日(月)	・計画訪問 (研修計画全般について指導・助言を仰ぐ) ・話す・聞く力を育てるための指導はどうか
7月10日(月)	・提案授業 (5年) 授業者 福士 道太
夏休み中	・現職教育(特別支援教育) 講師 未定
9月19日(水)	・提案授業 (6年) 授業者 北山 沢也
10月 3日(水)	・提案授業 (2年) 授業者 坂本 和泉
11月15日(木)	・提案授業 (1年) 授業者 田中 恵美子
10月24日(水) 10月29日(月)	・要請指導案検討会 ・要請指導案検討会
11月26日(月)	要請訪問 ・提案授業 (3年) 授業者 金枝 朋子
1月11日(金) 冬休み中	・現職教育(スキー) 講師 福士 道太先生 ・現職教育(パソコン) 講師 加藤 禎春氏
1月16日(火)	・今年度研修の反省 ・今年度研修のまとめ ・年の研究の発表
2月20日(水)	・次年度研修の方向づけ
3月21日(金)	・研究集録29号発行

#### 計画訪問

6月18日(月)

事務所訪問者 主任指導主事 荒谷 一昭 指導主事 高木 隆雄  
市教委訪問者 室 長 中嶋 静賢 主任指導主事 羽賀 義易 指導主事 渡邊 幸司

#### 要請訪問

11月26日(月)

事務所訪問者 指導主事 松山 正孝 指導主事 鳥山喜代志  
市教委訪問者 室 長 中嶋 静賢 指導主事 渡邊 幸司